

## 文献目録 インドネシア語

<音声・音韻/形態論/統語/語彙/文法/語用/語史>

・ Moeliono. Anton M, Has Lapoliwa, Hasan Alwi, Sry Satrya Tjatur Wisnu Sasangka, Sugiyono (2017) *Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia Edisi ke-4*. Badan Pengembangan dan Pembinaan Bahasa, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan, Jakarta. (インドネシア語文献)

インドネシア教育文化庁 (Kemendikbud)監修による、2022年現在での最新版インドネシア語正書法。大きなテーマとしては音韻・形態・統語について詳細な記述が確認できる。特に形態については各品詞ごとに項目を立てて説明されており、インドネシア語に豊富な接辞の機能についても解説されている。特に統語論はある程度体系的。

<音声・音韻>

Halim, Amran. (1984) *Intonasi: Dalam Hubungannya Dengan Sintaksis Bahasa Indonesia*. DJambatan, Jakarta.  
(未完)

<語用>

Purwo, Bambang Kaswanti (1984) *Deiksis Dalam Bahasa Indonesia*. Balai Pustaka, Jakarta.  
(未完)

<形態/統語/文法>

・ Sneddon, J.N. (2010) *Indonesian Comprehensive Grammar 2nd Edition*. London, Routledge. (英語文献)  
英語で記述されたインドネシア語文法書で、多くの文法研究で引用されている。語・句・節・文の4項目で構成されており、特定の語と共起して表現する構文的な要素もいくつか取り上げている。

<語史/言語接触/方言>

・ Sneddon, J.N. (2003) *The Indonesian Language: Its History and Role in Modern Society* (英語文献)  
2000年代初頭までのインドネシア語史について、古マレー語時代から遡って記述している一冊。内容は歴史言語学/社会言語学寄りで、オーストロネシア語族に関する概略や、歴史を通じたサンスクリット/オランダ語/日本語/英語との言語接触、20世紀以降顕著になった独立運動に伴うインドネシア語成立についての過程、各時代におけるマスメディアの台頭による言語への影響、インドネシア語成立に伴うジャワ語といった地方言語の言語的地位など、インドネシア語史について幅広いテーマで扱っている。

<方言/音韻/形態/統語/コーパス/語用>

Sneddon, J.N. (2006) *Colloquial Jakartan Indonesian* (英語文献)

2022年現在の口語体インドネシア語でしばしば用いられている、ジャカルタのブタウィ方言について包括的な文法記述がまとまっている一冊。いわゆる標準インドネシア語の文法と比較しながら記述しており、会話で頻出される「談話小辞」(discourse particle)に関する記述も掲載。巻末には小規模ながら、著者の収集したジャカルタ在住のインドネシア人による対話の書き起こしコーパスが付属している。

<辞書・事典>

・佐々木重次 (2020) 「最新インドネシア語小辞典 第1.5版」.Grup Sanggar

インドネシア語研究者必携のコンパクト辞書。持ち運びやすさに反して収録語彙の幅がとにかく広い。インターネット上から語を収集、掲載しており、実際に用いられている活きた語彙を掲載しているため実用的。基語に接辞がついた派生語の見やすさや語義に則った表記、他動詞の明記なども為されており、文法研究をする際非常に便利。

・舟田京子, 高殿良博, 左藤正範 (編). (2018) 「プログレッシブインドネシア語辞典」.小学館  
日本語辞書の中では新しく、インドネシア語-日本語だけでなく、日本語-インドネシア語も引けるのが便利。引きやすさの面では、di-形を除く接辞付きの派生語から基語を辿ることができ、派生語の接辞を外して基語から引くのに慣れていない初学者に特におすすめ。研究の面では、特定地域で話される傾向にある語には、地域のラベルがついており、口語寄りの表現や例文も載っている点が強み。

・Quinn, G. (1999) *The Learner's dictionary of Today's Indonesian*. Routledge.

英語母語話者のために作成された辞書。インドネシア語-英語辞書の中でも、特に1語辺りの用例が豊富。日本語だけでなく、英語を経由した語義定義を参照することで、より対象とする語の解像度が上がることもあるため、おすすめ。

・Alan M. Stevens and A. Ed. Schmidgall-Tellings (2004) *A Comprehensive Indonesian-English Dictionary* 2nd edition. Ohio University Press.

こちらのインドネシア語-英語辞書は特に語彙の包括的な記述が行われているのが特徴である。1語の定義を深く調べたい時や、インドネシア語例文にグロスを付ける際に参考となる。

・Kamus Besar Bahasa Indonesia Daring (<http://kbbi.kemdikbud.go.id/>)

Pusat Bahasa (国語研究所)編纂のモノリンガル辞書 "Kamus Besar Bahasa Indonesia" (インドネシア語大辞典) のオンライン版。接辞による派生語を入力すると、基語まで参照できる。ただし、地域差による異形態(綴りの違い)は考慮されないため、検索の際は注意が必要。

<コーパス>

・Leipzig Corpora-Indonesian

WEB上で利用できる大規模コーパス。ネット上の用例や Wikipedia 記事本文、ニュース記事等をベースにしており、混合コーパスの語数/文例数は約 12 億語/7400 万文。

調べたい語を入力すると、ヒット数/例文/文中に共起する語/対象語の前後に共起する語などが表示される。なお補足として、ジャワ語やバリ語、スンダ語といったインドネシア諸地域で用いられている言語のデータも同コーパスで提供されている。